

(配布先)  
支店長・副支店長  
施工担当部署長、建設所長  
副部長、副所長、統括工事長  
安全長・安全主任  
工事長・工事主任

事務連絡(安-2022-41)  
令和 4 年 12 月 19 日

関西支店  
安全環境部長

### 解体工事における災害防止について(指示)

先日、当社の海外作業所において、既設倉庫の外壁解体作業中に隣接する外壁（高さ 13m、幅 22m、コンクリートブロック造一部 RC 造）が連鎖的に崩落し、建物外部で人の立入りを監視していた作業員の頭部に、飛散した部材が当たり死亡するという災害が発生しました。（別紙参照）

当該建物の解体にあたり入手した図面では、外壁が鉄筋コンクリートによる柱梁に保持される構造となっていました。実際には外壁を保持する鉄筋コンクリートの構造体は存在せず、屋根を支える鉄骨柱とも結合されていないという特殊な構造でした。

また、解体専門業者の助言に基づき計画していた小出し中心の解体計画を、現地調達できる機械を使用した解体計画に変更したものの、社内関係スタッフ等による再検討が行われていませんでした。

つきましては、解体工事における同種災害の再発防止のため、下記事項を再徹底するよう指示します。

### 記

1. 解体工事については、検討会で定めた計画通りに実施し、社内関係スタッフは難度、危険度に応じて実施状況をフォローすること。
2. 解体工事の途中で工法を変える必要が生じた場合は、作業を中断して社内関係スタッフとともに再検討を実施の上、その手順について周知徹底を図ること。

以 上

※この事務連絡は、令和 4 年 12 月 14 日に安全環境本部発行示達本(安環安)22-07 に基づき作成しました。

## 発生状況

倉庫解体工事中において、後方建屋南側の壁(図中赤部分)解体作業のため、前方建屋南側の壁(図中青部分)近くに 1 人の監視員が配置されていた。後方建屋南側の壁(図中赤部分)をブレーカ搭載バックホウで解体すると、意図していなかった前方建屋南側の壁(図中青部分)も連鎖的(赤→緑→青の順に倒壊)に崩れた。退避した監視員は、崩れたがれきにより頭部を負傷し、すぐに病院に搬送したが、その後死亡が確認された。

また、前方建屋南側の壁(図中青部分)の内側において、高所作業車上で作業していた2人の作業員も崩壊の際、肩に軽傷を負った。

